



NIPPON SANSO HOLDINGS

個人投資家さま向け企業説明会

# 日本酸素ホールディングスグループ 事業概要と成長戦略について

2021年8月13日

財務・経理室 IR部長 梅原 崇禎

The Gas Professionals

# 重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション」とは、本プレゼンテーションにおいて、日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「日本酸素HD」）によって説明または配布された本書類、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内もしくは勧誘、または、いかなる投票もしくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明または形成するものではありません。また、これを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより、株式または有価証券の募集を公に行うものではありません。本プレゼンテーションは、投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく、情報提供のみを目的として、受領者に使用されるという条件の下で、受領者に対して提供される追加情報とともに提供されております。この制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券関連法規の違反となる可能性がございます。日本酸素HDが直接的に、または間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「日本酸素HD」という用語は、日本酸素HDおよびそのグループ会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。また、同様に「当社、当社グループ」という用語は、子会社全般またはそこで勤務するものを参照していることもありえます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることがあります。

## ・将来に関する見通し情報

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関して配布された資料には、日本酸素HDの理念または見解、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、見積もり、予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする」「計画する」「信じる」「望む」「継続する」「期待する」「めざす」「意図する」「確実にする」「だろう」「かもしれない」「すべきである」「であろう」「することができた」「予想される」「見込む」「予想する」などの意思や推量をあらわす用語もしくは同様の表現またはそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られません。これらの将来見通しに関する情報は、多くの重要な要因に関する前提や想定に基づいており、実績としてあらわれる業績では、将来見通し情報を通じて明示または暗示された将来の業績とは異なる可能性があります。その重要な要因には、国内外の一般的な経済条件を含む、当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の開発・出現、関連法規の変更、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、販売された製品または試験・候補製品の安全性または有効性に関するクレームまたは懸念等、新型コロナウイルス感染症のような健康危機が当社の事業を行う国・地域の政府を含む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（Post Merger Integration:買収後統合）の時期及び影響、日本酸素HDの事業資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のWebサイトにおいて閲覧可能な日本国の有価証券報告書関連法規に沿って提出された最新の年次有価証券報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。日本酸素HDは、関連法規や証券取引所の関連規制により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる情報または当社が提示するあらゆる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は、将来の経営結果の指針とはなりません。本プレゼンテーションにおける日本酸素HDの経営成績は、日本酸素HDの将来の経営成績またはその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証または見積もりではないことにご留意ください。

## ・国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、コア営業利益、EPS（1株あたりの当期利益）、有利子負債、純有利子負債、調整後ネットD/Eレシオ、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標（以下、「当社独自指標」）が含まれています。当社役員及び執行役員は、業績評価ならびに経営および投資判断をIFRSおよびIFRS以外の指標に基づき実施しています。当社独自指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、または異なる数値となる一定の利益、費用およびキャッシュ・フロー項目を除外しております。当社独自指標を提供することで、当社役員及び執行役員は、投資家の皆さまに対して、当社の経営状況、主要な業績および動向のさらなる分析のための付加的な情報を提供したいと考えており、当社独自指標は、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、当社独自指標について、これらによく対応するIFRSに準拠した財務指標との照合を行っていただきますように、お願い申し上げます。

## ・財務情報

当社の財務情報は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。



# 本日の内容

1. 日本酸素ホールディングスについて
2. 成長事業領域
3. ESG課題への取組み
4. 株主還元



# 1. 日本酸素ホールディングスについて

# 会社概要

商号	日本酸素ホールディングス株式会社
証券コード	東京証券取引所 市場第一部 <b>4091</b>
創業年月日	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
連結売上収益	8,182億円 (2021年3月期 IFRS基準)
連結営業利益	888億円 (同上)
連結従業員数 (2021年3月31日現在)	19,357名 (国内 6,599名、海外 12,758名)
主要株主の状況 (2021年3月31日現在)	株式会社三菱ケミカルホールディングス 50.59% 出資比率は、自己株式を控除した発行済株式総数より算出しています。



代表取締役社長 CEO

はまだ としひこ  
**濱田 敏彦**

時価総額 (2021年8月2日現在)	10,649 億円
株価(終値) (2021年8月2日現在)	2,459 円 単元株式：100株
PBR(株価純資産倍率)	2.07 倍 1株当たり親会社所有者帰属持分(2021年3月期実績)と上記表示の株価より算出
PER(株価収益率)	18.28 倍 基本的1株当たり当期利益(2022年3月期予想)と上記表示の株価より算出

# The Gas Professionals

## グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

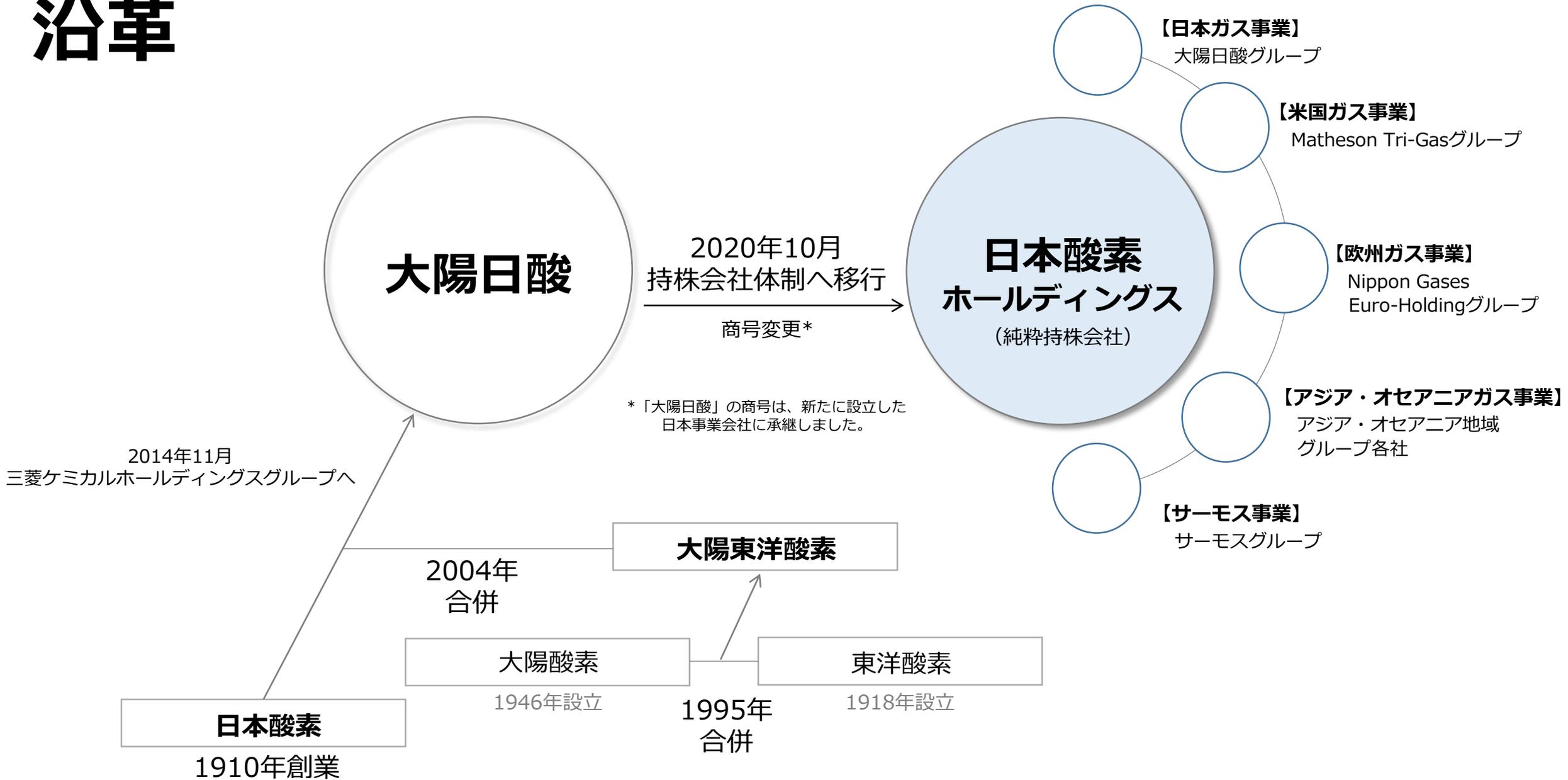
Proactive. Innovative. Collaborative.  
Making life better through gas technology

## グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより  
社会に新たな価値を提供し、  
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、  
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions that increase industrial productivity, enhance human well-being and contribute to a more sustainable future.

# 沿革



# 主要な事業

## 産業ガス事業



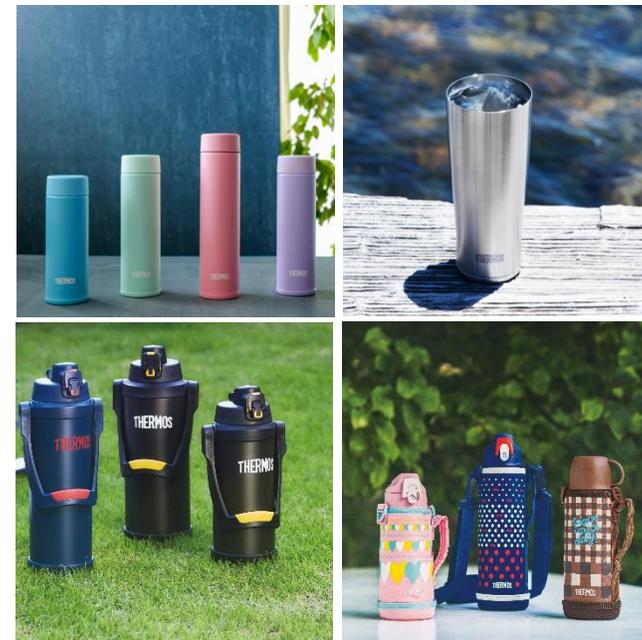
- 主な製品
- 酸素 Oxygen
  - 窒素 Nitrogen
  - アルゴン Argon
  - 水素、一酸化炭素、合成ガス  
Hydrogen, CO and syngas
  - 炭酸ガス Carbon dioxide
  - ヘリウム Helium
  - 上記に関連する機器・工事

## エレクトロニクス事業



- 主な製品
- アルシン  $AsH_3$
  - ジボラン  $B_2H_6$
  - モノフルオロメタン  $CH_3F$
  - 塩化水素 HCL
  - ホスフィン  $PH_3$
  - シラン  $SiH_4$
  - 上記に関連する機器・工事

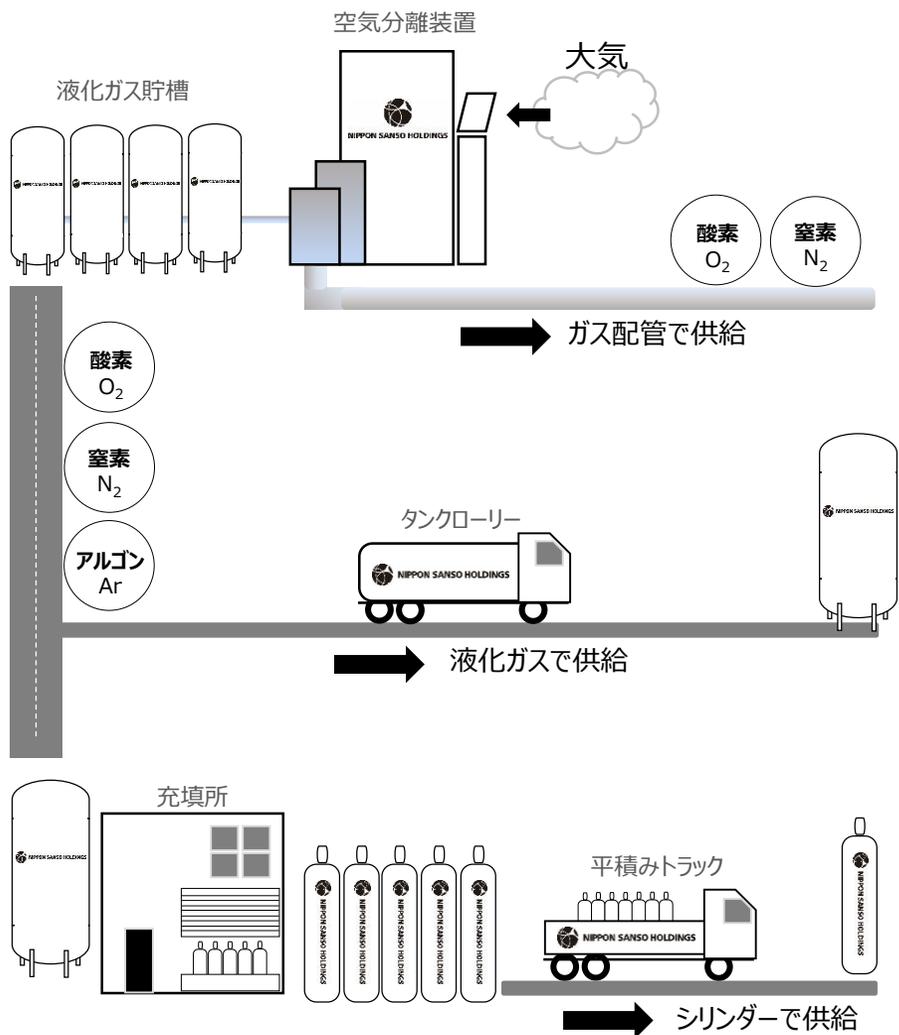
## サーモス事業



- 主な製品
- スポーツボトル
  - ケータイマグ
  - タンブラー
  - フライパン
  - お鍋
  - ランチジャー

# 産業ガスの供給モデル

## エアセパレートガス



## オンサイト On-site

主要な供給先（業種）

鉄鋼 石油化学 石油精製

客先の隣接地に生産工場を設置し、配管を直接繋いで、常時供給する形態（大規模供給）

## バルク Bulk

主要な供給先（業種）

自動車 造船 ガラス・製紙  
建設機械 製薬・医療 食品・飲料  
液晶パネル 太陽電池 半導体

客先構内に液化ガスの貯槽を設置し、ガスの利用方法に応じて供給する形態（中規模供給）

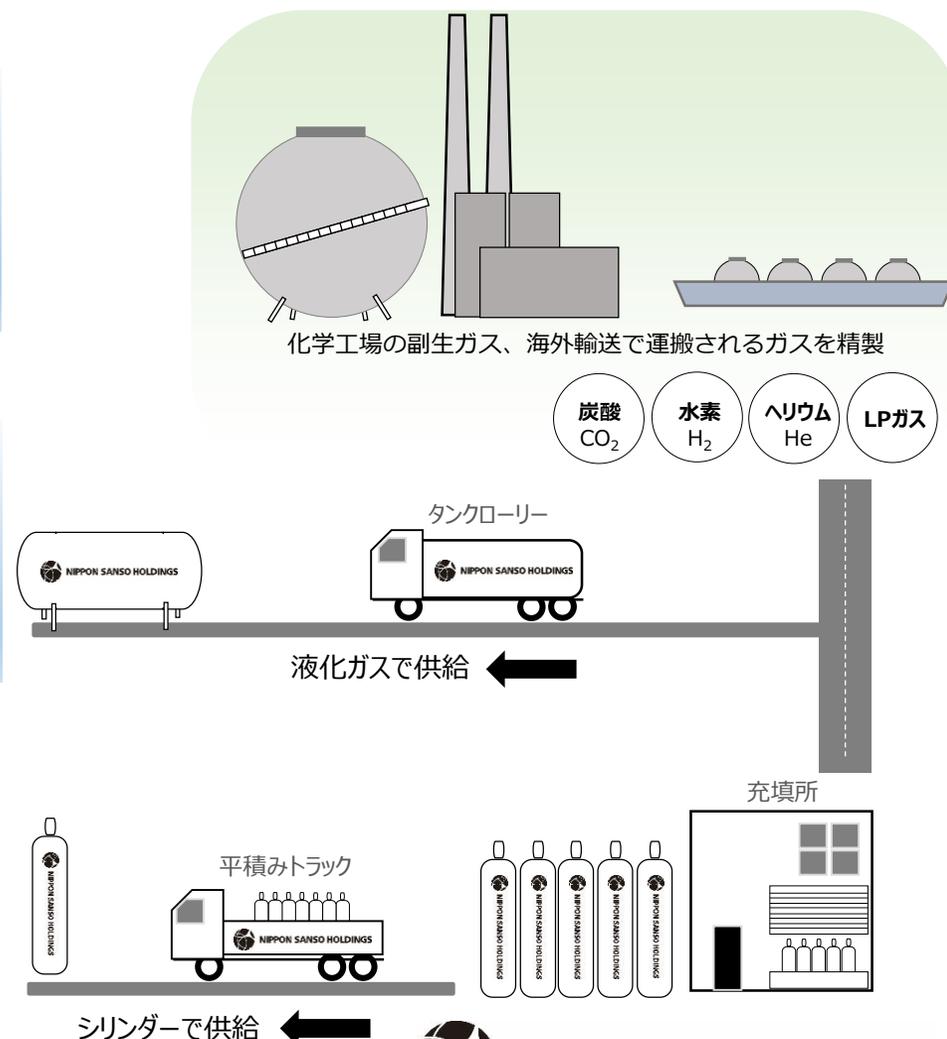
## パッケージ Packaged

主要な供給先（業種）

在宅医療 先端医療 公衆衛生  
技術開発 研究開発 建設工事

客先に充填容器（シリンダー）を配送し、ガスの利用方法に応じて供給する形態（小規模供給）

## その他のガス



# 産業ガスの貢献分野

鉄鋼、化学、エレクトロニクス、輸送機器・機械、食品、生命科学・医療、エネルギー等のあらゆる産業に様々なガスの供給を通じて、日本の産業界の発展を支えてきました。また、産業の発展とともに業界・用途が広がっています。

1910年代～



供給先の主な業界  
鉄道、陸海空軍

供給する主なガス  
酸素、アセチレン

代表的な用途  
金属切断・溶接



1950年代～



供給先の主な業界  
製鉄・造船

供給する主なガス  
酸素

代表的な用途  
高炉への吹込み



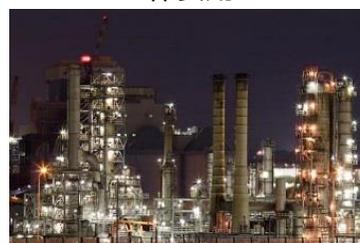
1960年代～



供給先の主な業界  
石油化学

供給する主なガス  
窒素

代表的な用途  
保安用



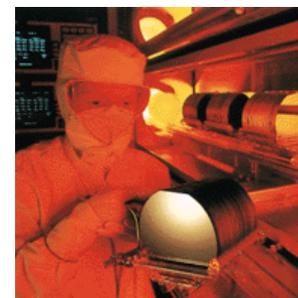
1970年代～



供給先の主な業界  
半導体・自動車

供給する主なガス  
窒素、アルゴン

代表的な用途  
酸化防止



1980年代～



供給先の主な業界  
医療・食品

供給する主なガス  
酸素、窒素

代表的な用途  
病院・封入

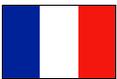


# 産業ガス市場シェア

ガスジオラマ及びウェルディングMARTに掲載されている産業ガスマーケットシェアをもとにして当社で推定

## グローバル

市場規模(2016年) : 856億米ドル

1位		リンデ Linde plc*	推定シェア 35%~
2位		エア・リキード Air Liquide S.A.	25%~
3位		エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ Air Products and Chemicals, Inc.	9%~
4位		日本酸素ホールディングス Nippon Sanso Holdings Corporation	7%~
5位		メッサーグループ Messer Group GmbH	2%前後

\*Linde plcは、2018年10月に 独Linde AGと米Praxair Inc. が統合して発足

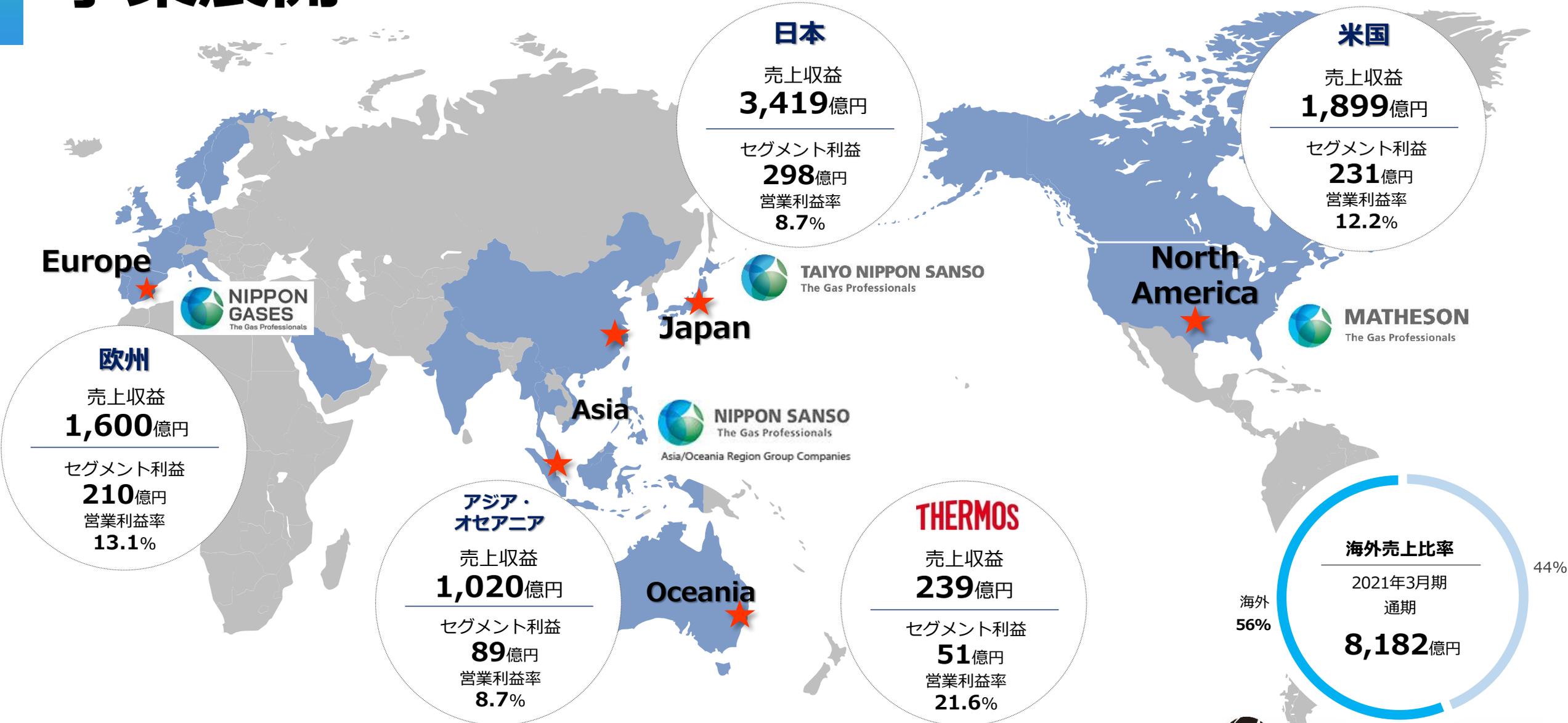
## 日本

販売市場規模(2018年3月期) : 5,700億円

1位		大陽日酸株式会社 (日本事業会社) (日本酸素ホールディングスグループ)	推定シェア 40%
2位		エア・ウォーター株式会社	22%
3位		日本エア・リキード合同会社 (Air Liquide Japan G.K.)	15%
4位		岩谷産業株式会社	14%

# 事業展開

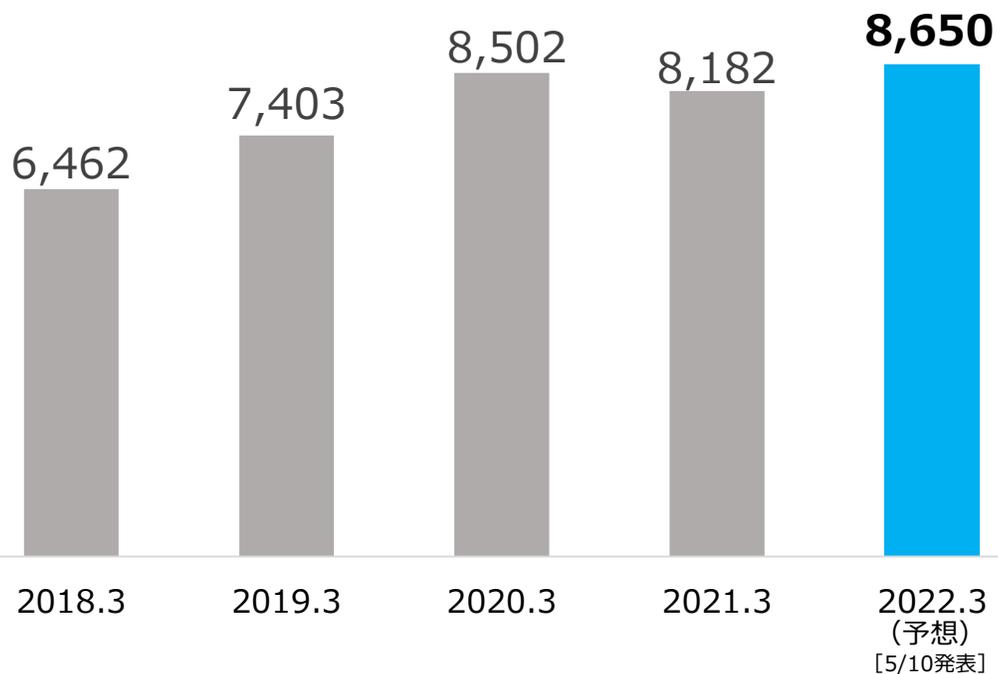
2022年3月期でセグメント区分の内訳組替えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント区分に基づき表示しています。



# 業績推移

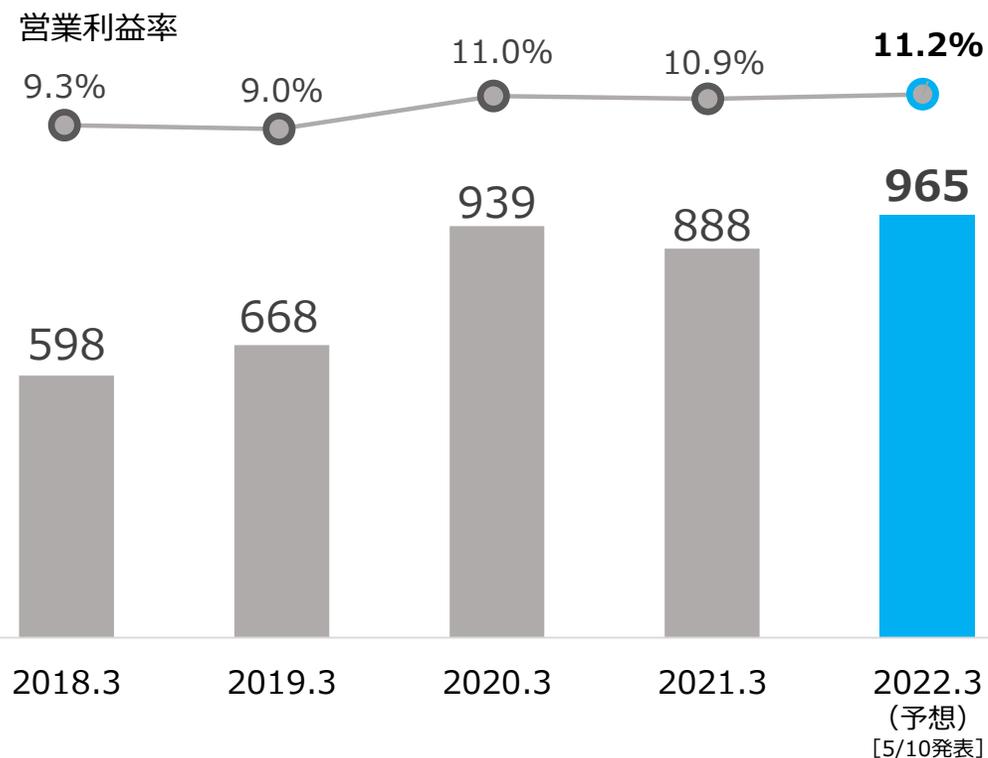
## 売上収益

(億円)



## 営業利益 (IFRS)

(億円)



# 連結決算要約 (第1四半期)

	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比		2022年3月期
	第1四半期	第1四半期	増減額	増減率	通期予想
(単位：億円)	(4-6月期)	(4-6月期)			(5月10日発表)
売上収益	1,845	2,183	+338	+18.3%	8,650
営業利益 (IFRS)	140	245	+105	+74.6%	965
営業利益率	7.6%	11.3%			11.2%
税引前四半期利益	114	222	+108	+93.1%	860
親会社の所有者に帰属する四半期利益	74	160	+86	+116.0%	582
四半期利益率	4.0%	7.4%			6.7%
為替レート (円)	USD (米ドル)	107.38			105
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	118.74			125

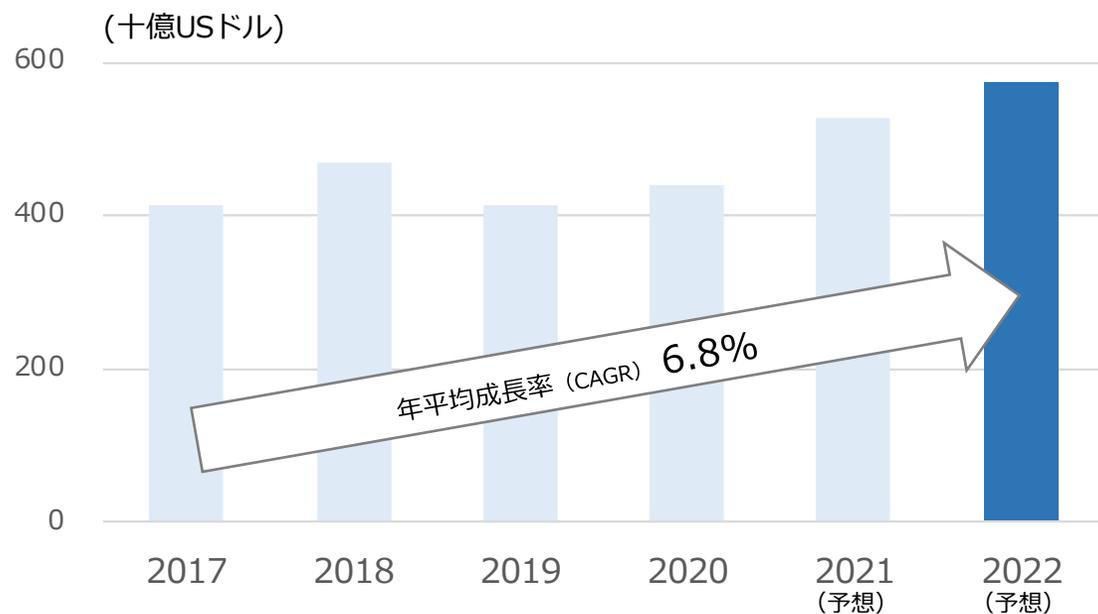


日本事業会社-大陽日酸グループの特殊ガス生産会社「ジャパン ファイン プロダクツ株式会社」での作業風景

## 2. 成長事業領域 (エレクトロニクス関連)

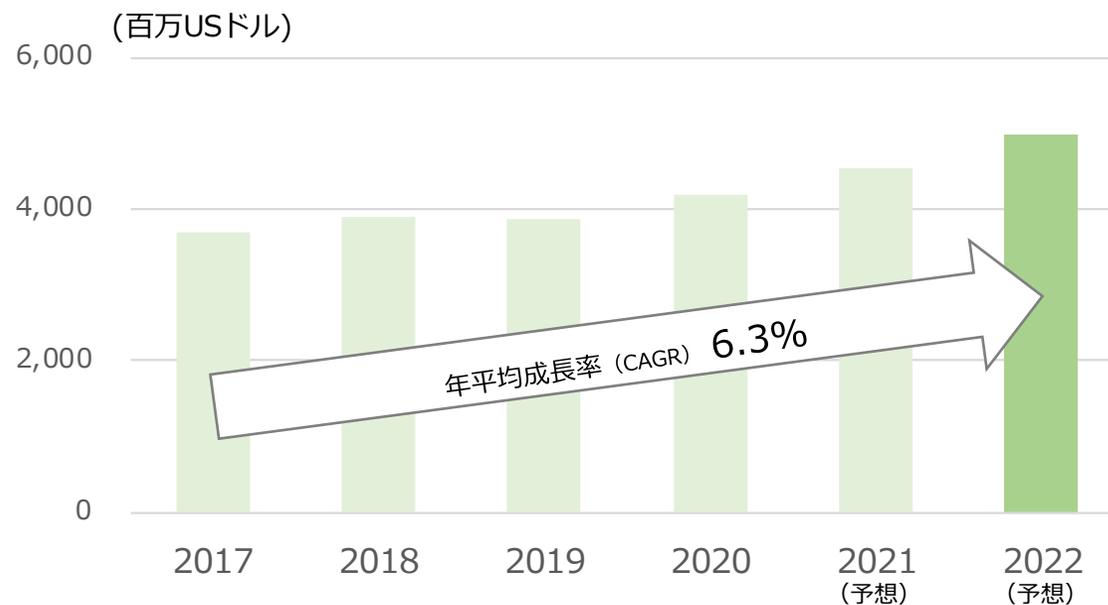
# エレクトロニクス市場の見通し

## 半導体市場規模



(データ出所)  
「WSTS 2021年春季半導体市場予測について」 2021年6月8日発表  
<https://www.jeita.or.jp/japanese/stat/wsts/docs/20210608WSTS.pdf>

## 半導体ガス市場規模



(データ出所)  
「2021 TECHCET's Critical materials report Electronics Gases」  
Prepared by Jonas Sundqvist, PhD

# エレクトロニクス産業への貢献

ガス供給から排気まで一貫して全て自社ブランドで供給・サポートできる体制を構築しています。



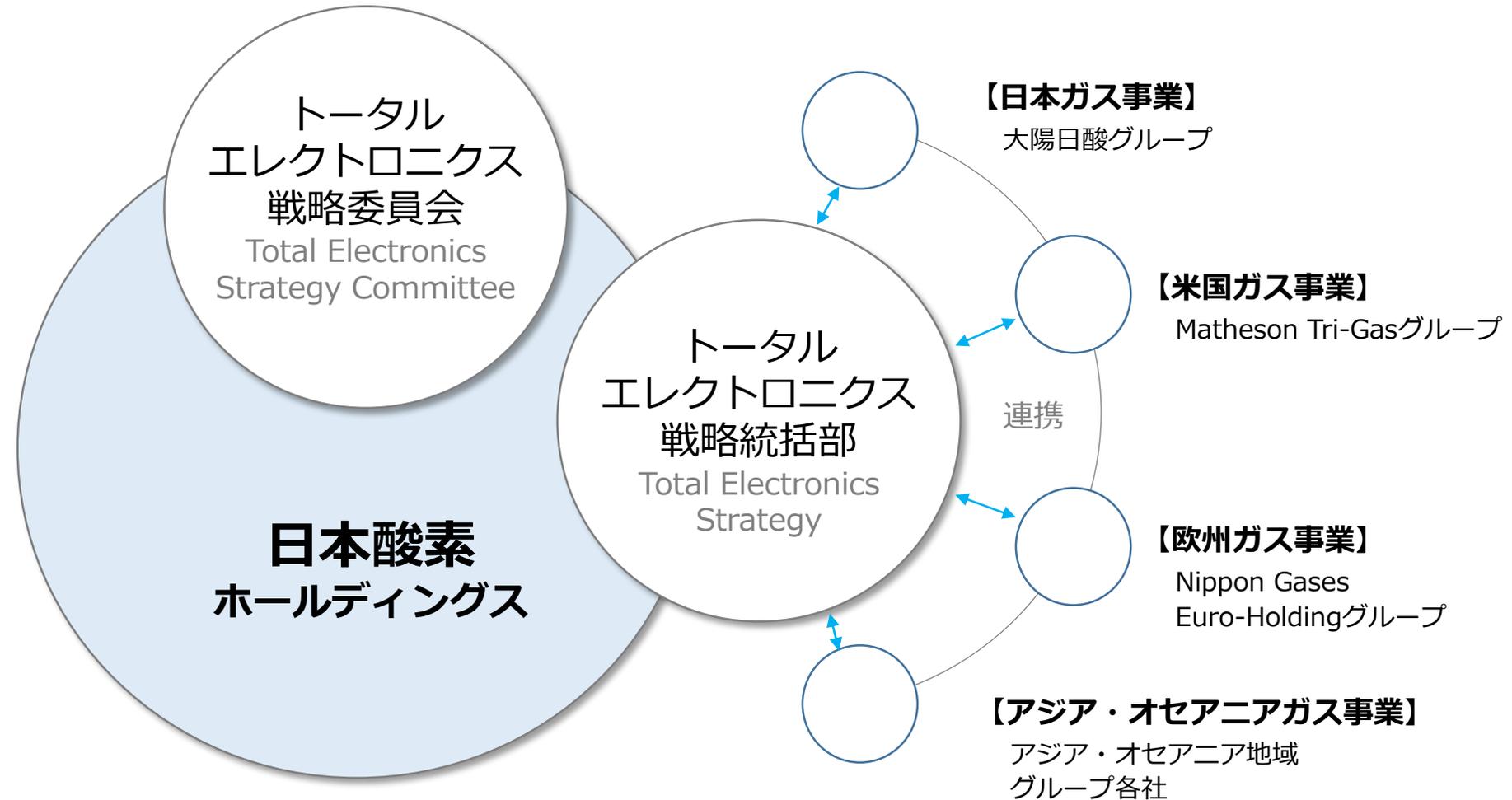
# エレクトロニクス重点施策（グローバル）

## 運営概要

グローバルな事業ネットワーク間で連携し、日本酸素ホールディングスグループ一貫で、対応しています。

日本、東アジア（中国/韓国/台湾）、欧米などでの事業で得た技術・知見・経験を地域をこえて展開しています。

グローバル各極にある生産拠点で製造した高品質な電子材料ガスを輸出入で、供給しています。



# エレクトロニクス重点施策（日本）

- **One TNSC**：日本事業会社「大陽日酸（Taiyo Nippon Sanso Corporation）」グループ総合力強化
- ガス及びガス周辺領域（ガス機器、ガスアプリケーション）へのさらなる事業拡大
- 顧客志向の徹底とトータルガスビジネス（包括的なガス供給関連業務受託）の実践

社名（供給拠点）	（株）岩手黒沢尻ガスセンター [岩手県北上市]
供給先	半導体メモリメーカー
主要設備	酸素・窒素併産型空気分離装置（ASU）3基 バックアップ用タンク 12基、蒸発器 34基
設立年月	2018年11月
資本金	50百万円



# スマートファクトリー\*化への対応（日本）

\*スマートファクトリーとは、一般的に、デジタルデータの活用等で業務プロセスの改革、品質・生産性の向上を継続・発展的に実現する工場を指します

- 当社のガスハンドリングノウハウを活かし、半導体ユーザーとともに、次世代ガス供給システム（IGSS：インテリジェント・ガス・サプライングシステム）を構築
- ユーザーが簡便・安全・安定的にガスをご利用いただけるように、ガス供給に関連する一連のオペレーションをタブレット端末で一元的に管理できるようにサポート



構成要素の一例【C drive】  
作業省力化：容器自動搬送システム



主な特徴

1本あたり50kg超のガス充填容器（シリンダー）をロボットが自動搬送

ロボットが空間を検知して、自動で地図を作成して、操作者の指定場所（格納容器）に搬出・搬送

### 3. ESG課題への取組み



# 地球環境を守るために

サーモスグループでは、地球環境の大切さを認識し、環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。商品のライフサイクル全体で一貫した環境負荷の低減に取り組み、豊かさと環境が両立する社会の実現を目指しています。

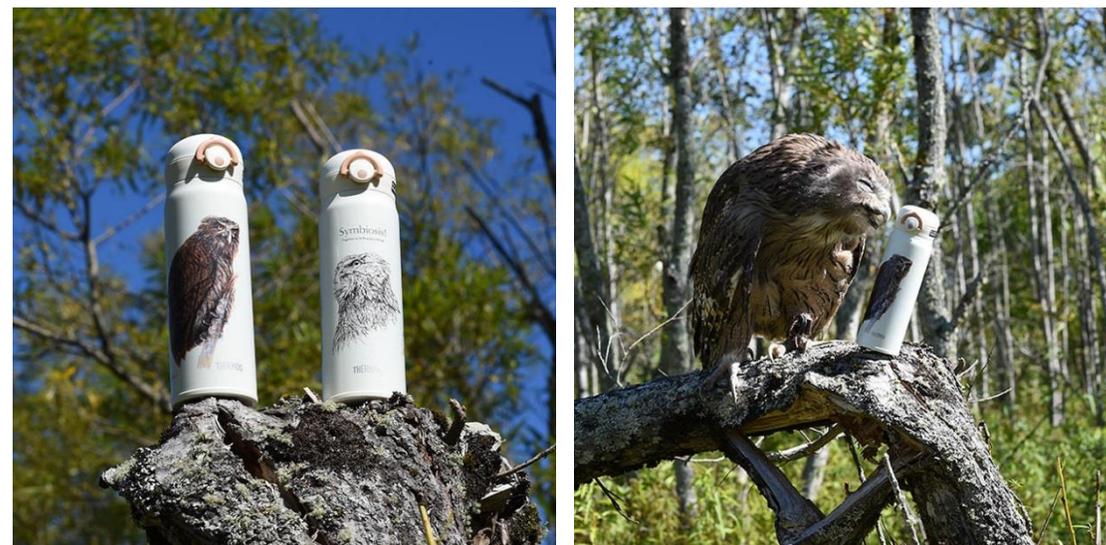
# THERMOS

魔法びんは、保温・保冷のために電気やガス、その他のエネルギーを必要としない、環境にやさしい製品です。



## 北海道での猛禽類保護活動を応援しています

サーモス株式会社では、北海道での猛禽類保護活動の応援を目的に、ケータイマグを発売しています。本製品の売上収益金の一部は、猛禽類医学研究所を通じて、オオワシ、オジロワシ、シマフクロウ等の絶滅の危機に瀕した野生動物の保護に使われています。



# カーボンニュートラル社会の実現に向けて

## 私たちに期待されている企業価値

世界的なカーボンニュートラル社会  
に向けた潮流を受けて

2050年  
カーボンニュートラル  
実現に向けた貢献

### 当社グループ 主要論点①

自社の事業活動で  
発生する  
温室効果ガス排出量

消費電力構成の  
グリーン化\*1

生産・物流の  
効率化

\*1 消費電力構成のグリーン化：  
再生可能エネルギーにより発電された電気環境付加価値を、契約の見直しや証書発行事業者が  
第三者認証機関の認証などを得て取引する仕組みを活用する手法

### 当社グループ 主要論点②

顧客の生産活動で  
発生する  
温室効果ガス排出量

燃焼効率の  
さらなる追求

CCUS\*2の  
取組み推進

\*2 CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) : 二酸化炭素回収・有効利用・貯留

### 当社グループ 主要論点③

次世代エネルギーの  
産業改革

水素等を活用した  
新規事業機会の  
探索・獲得

カーボン  
ニュートラルに  
寄与する技術の  
活用

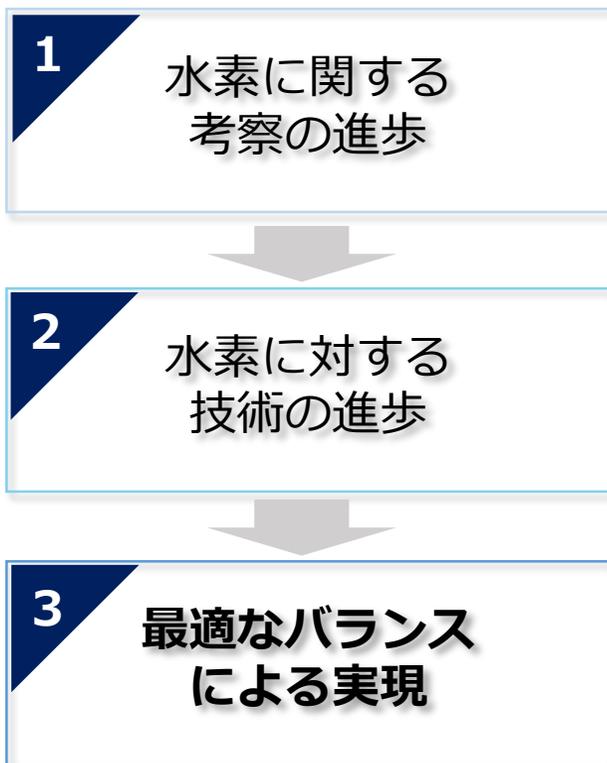
# 水素利用普及化について

— 水素製造を行っている産業ガスサプライヤーとして

カーボンニュートラルに向けた技術進化、経済合理性、市場開拓（需給）に沿った対応が重要

## 基本的な考え方

## 主要な論点



- **製造方法**（含む経済性、CO<sub>2</sub>回収/輸送/貯留/利用）  
炭化水素関連分離技術（天然ガス改質、石炭ガス化）、水電解、副生物水素精製 等
- **需要先**  
水素還元製鉄、燃料電池、水素燃料エンジン、水素・アンモニア利用火力発電
- **実現可能性の探求**  
関連技術のたゆまない進歩による、さらなる技術革新
- **経済合理性**  
供給サイドと需要サイドの両面から考えた、あらゆるコストダウンへの取り組み
- **社会的・技術的な課題の克服**  
インフラ整備を含めた一般社会・産業界への普及
- **他エネルギーとの最適構成**  
既存エネルギー（石炭、石油、天然ガス、電力 等）との最適な動力源バランス

# 人の命と健康を守るために（新型コロナウイルス感染症関連）

新型コロナウイルス感染症の患者さまの治療、mRNAタイプワクチンの輸送等の場面で、当社グループの製品・サービスを通じて、社会課題の解決に貢献しています。

人工呼吸器



MONNAL T60

医療用酸素



当社グループの医療関連事業

ワクチン輸送

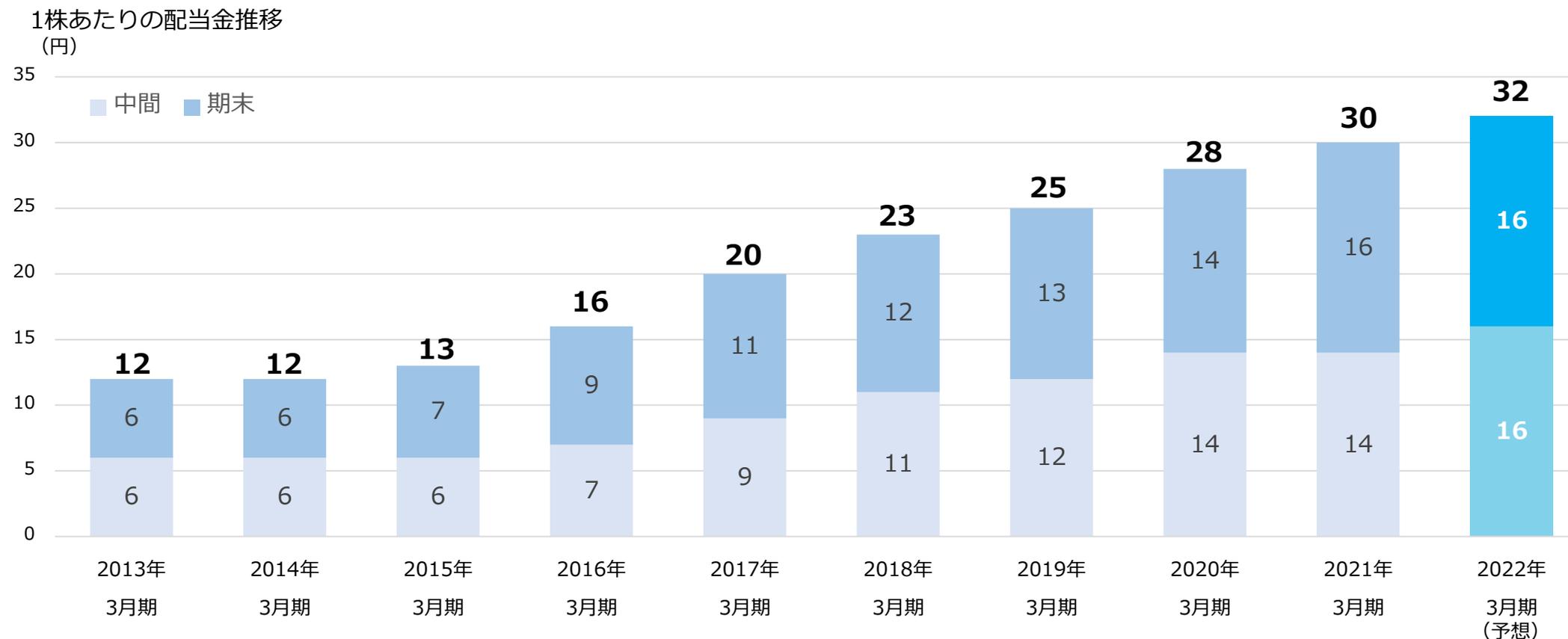


# 4. 株主還元



# 株主還元

安定的な配当を維持しつつ、連結業績との連動を考慮した配当政策を実施します。



# 株価推移

過去5年間の株価推移を2016年7月1日を基準にした増減率で表示しています。



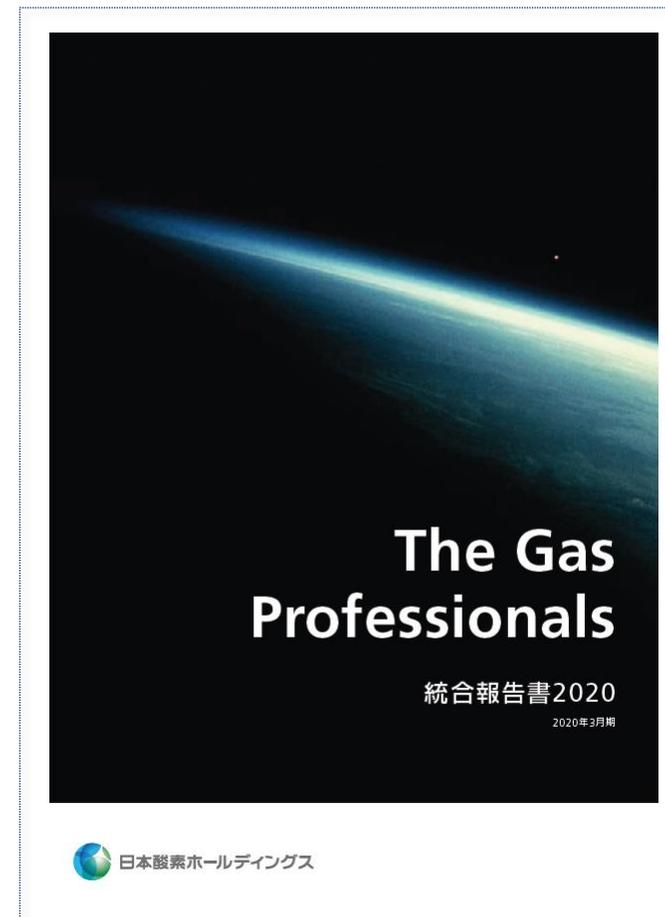
# 統合報告書のご案内

当社では、2017年から、財務・非財務情報を統合的に報告するために、「統合報告書」を発行し、当社のIR（投資家向け）情報サイトで公開しています。

2021年版は、2021年10月を目処にリリースする予定です。



日本酸素ホールディングス 統合報告書2020（表紙）



# 質疑応答

---

# Appendix

---

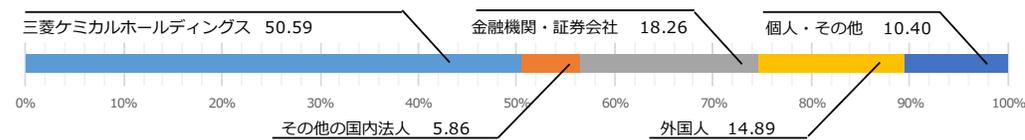
会社概要 (2021年3月31日現在)

商号 (英文名称)	日本酸素ホールディングス株式会社 Nippon Sanso Holdings Corporation
設立	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
電話番号	03-5788-8500 (代表)
代表者	代表取締役社長 CEO 濱田 敏彦
資本金	373億44百万円

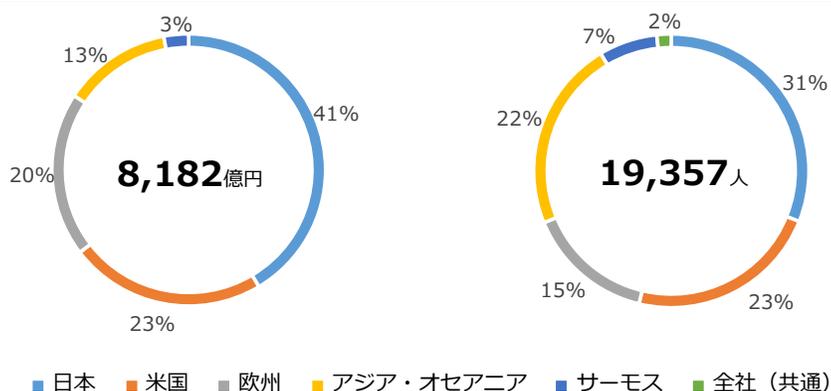
株式情報 (2021年3月31日現在)

発行済み株式総数	433,092,837 株
株主数	16,205 人
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4091.T

株式所有者別割合 (%)



セグメント別売上割合および連結従業員数構成比 (2021年3月31日現在)



企業理念

# The Gas Professionals

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.

Making life better through gas technology.

グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより  
社会に新たな価値を提供し、  
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、  
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas  
solutions that increase industrial productivity,  
enhance human well-being and  
contribute to a more sustainable future.

主要事業

産業ガス事業



エレクトロニクス事業



サーモス事業

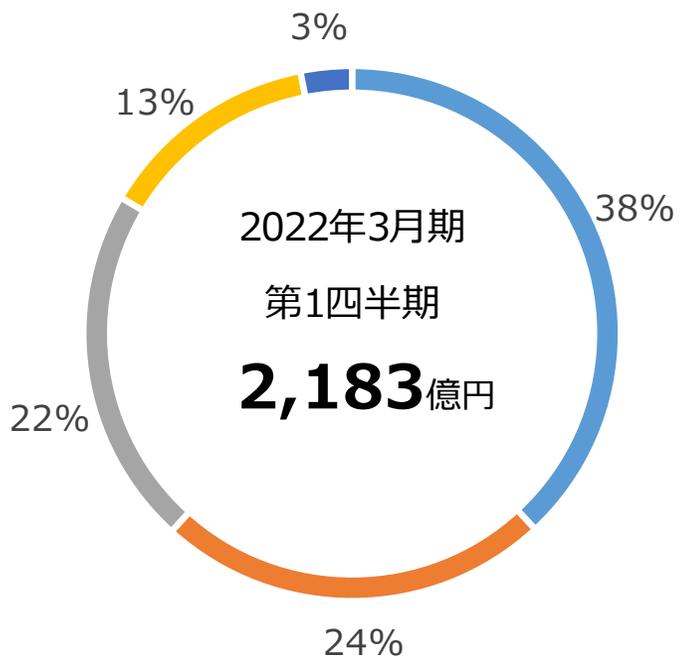


2022年3月期 業績見通し (IFRS)

売上収益	8,650 億円	親会社の所有者に帰属する当期利益	582 億円
営業利益	965 億円	EPS (1株あたり当期利益)	134.49 円

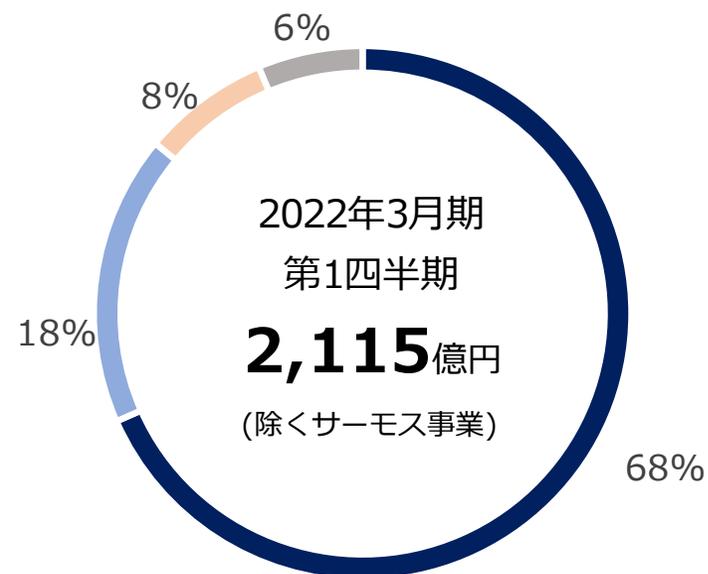
# 売上収益構成

## セグメント別



■ 日本 ■ 米国 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア ■ サーモス

## 事業別



■ 産業ガス ■ エレクトロニクス ■ メディカル ■ エネルギー

# 連結決算要約（通期累計）

	2020年3月期	2021年3月期	前期比		2021年3月期
	通期	通期	増減額	増減率	通期予想
(単位：億円)					(2/2発表)
売上収益	8,502	8,182	-320	-3.8%	8,020
コア営業利益	903	872	-31	-3.4%	830
コア営業利益率	10.6%	10.7%			10.3%
非経常損益	35	15	-20		16
営業利益（IFRS）	939	888	-51	-5.4%	846
営業利益率	11.0%	10.9%			10.5%
税引前利益	791	777	-14	-1.8%	729
親会社の所有者に帰属する当期利益	533	552	+19	+3.5%	481
当期利益率	6.3%	6.7%			6.0%
1株あたり当期利益（EPS）（円）	123.26	127.59	+4.33		111.15
為替レート					
米ドル（円）	108.95	105.94	-3.01		105
ユーロ（円）	120.85	124.07	+3.22		123

※2021年3月期（通期）における為替換算による影響額合計：売上収益 -7.5億円 コア営業利益 +1.0億円



# 連結決算見通し要約

	2021年3月期 通期	2022年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率
(単位：億円)				
<b>売上収益</b>	<b>8,182</b>	<b>8,650</b>	<b>+468</b>	<b>+5.7%</b>
<b>コア営業利益</b>	<b>872</b>	<b>960</b>	<b>+88</b>	<b>+10.0%</b>
コア営業利益率	10.7%	11.1%		
非経常損益	15	5	-10	
<b>営業利益 (IFRS)</b>	<b>888</b>	<b>965</b>	<b>+77</b>	<b>+8.6%</b>
営業利益率	10.9%	11.2%		
税引前利益	777	860	+83	+10.7%
<b>親会社の所有者に帰属する当期利益</b>	<b>552</b>	<b>582</b>	<b>+30</b>	<b>+5.4%</b>
当期利益率	6.7%	6.7%		
1株あたり当期純利益 (EPS) (円)	127.59	134.49	+6.90	
ROCE (使用資本利益率)	6.1%	6.7%		
調整後ネットD/ELレシオ	1.15	1.01		
為替レート				
米ドル (円)	105.94	105.00	-0.94	
ユーロ (円)	124.07	125.00	+0.93	



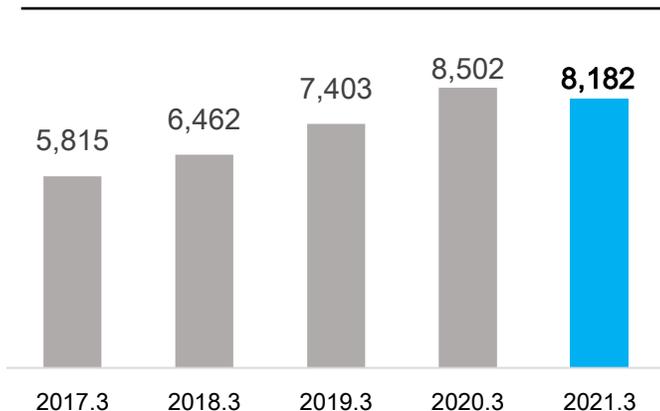
# セグメント別業績見通し

2022年3月期でセグメント区分の内訳組替えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント区分に基づき表示しています。

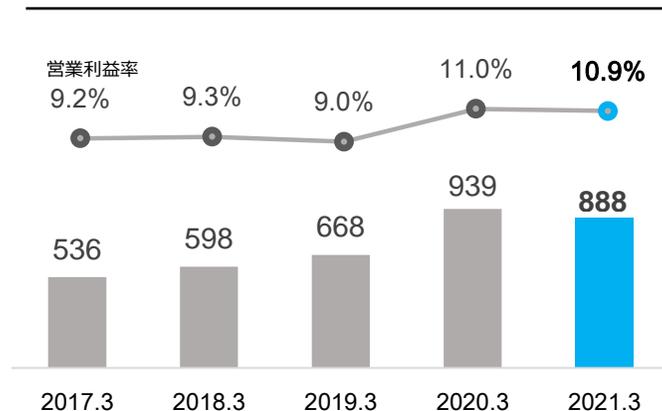
		2021年3月期 実績	2022年3月期 見通し		前期比		為替影響
		通期	通期	構成比	増減額	増減率	
(単位：億円)							
国内ガス事業	売上収益	3,419	<b>3,600</b>	41.6%	+181	+5.3%	
	セグメント利益	298	<b>311</b>	32.4%	+13	+4.1%	
	利益率	8.7%	8.6%				
米国ガス事業	売上収益	1,899	<b>1,980</b>	22.9%	+81	+4.2%	-16
	セグメント利益	231	<b>236</b>	24.6%	+5	+2.0%	-2
	利益率	12.2%	11.9%				
欧州ガス事業	売上収益	1,600	<b>1,730</b>	20.0%	+130	+8.1%	+11
	セグメント利益	210	<b>248</b>	25.8%	+38	+18.0%	+1
	利益率	13.1%	14.3%				
アジア・オセアニアガス事業	売上収益	1,020	<b>1,060</b>	12.3%	+40	+3.9%	
	セグメント利益	89	<b>102</b>	10.6%	+13	+14.3%	
	利益率	8.7%	9.6%				
サーモス	売上収益	239	<b>280</b>	3.2%	+41	+16.8%	
	セグメント利益	51	<b>74</b>	7.7%	+23	+43.2%	
	利益率	21.6%	26.4%				
調整額	売上収益	2	—	—	—	—	
	セグメント利益	-8	-11	-1.1%	-3	—	
連結合計	売上収益	8,182	<b>8,650</b>	100.0%	+468	+5.7%	-4
	セグメント利益	872	<b>960</b>	100.0%	+88	+10.0%	+0
	コア営業利益率	10.7%	11.1%				

# 過去5か年の業績推移

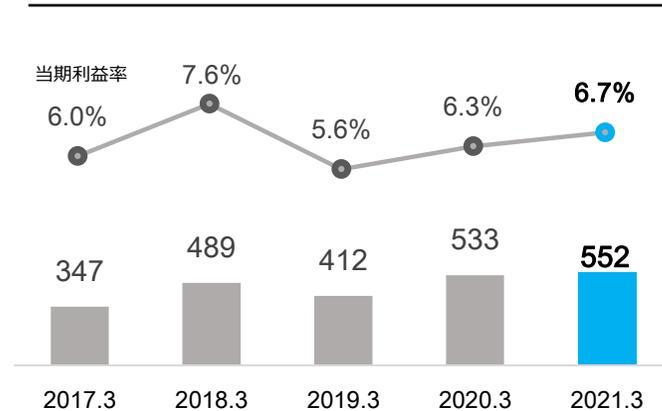
売上収益 (億円)



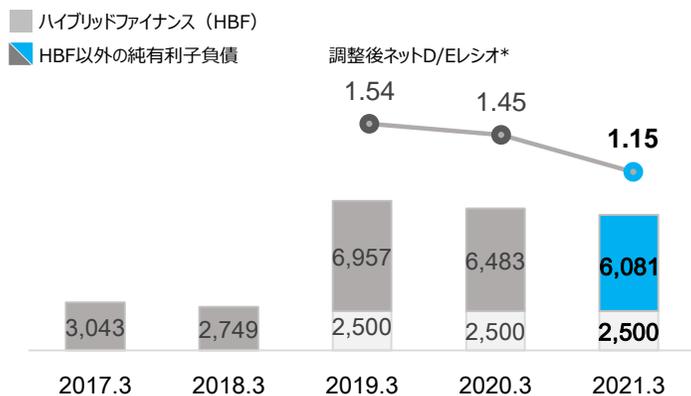
営業利益 (IFRS) (億円)



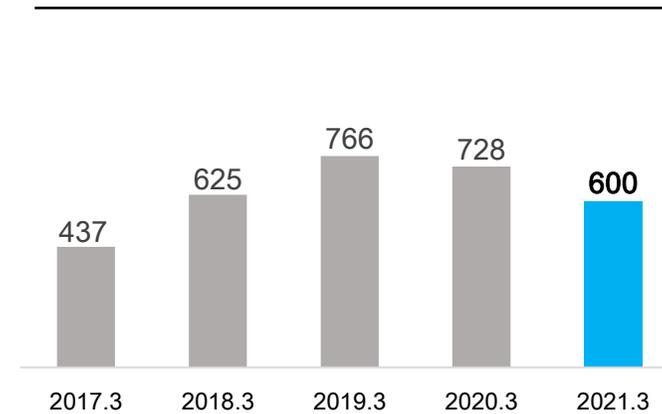
親会社の所有者に帰属する当期利益 (億円)



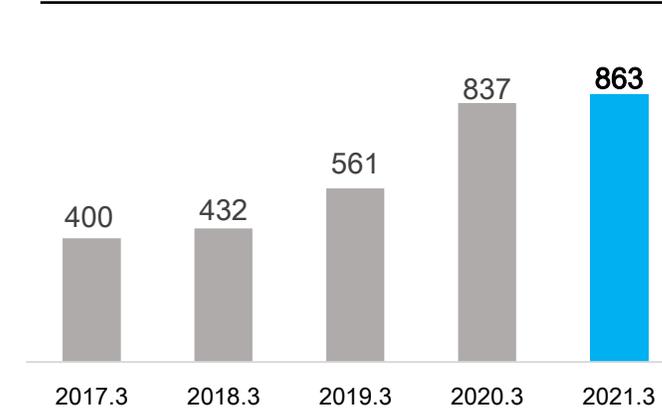
純有利子負債 (億円)



設備投資額 (億円)



減価償却額・償却費 (億円)



\*調整後ネットD/Eレシオ: 格付機関により、HBFで調達した金額の50%を「資本」として認められていますので、この部分を考慮して算出した安全性（財務健全性）を示す指標です。

\*2019年3月期までは工事ベースでの計上、2020年3月期以降は資金ベースでの計上です。



# THERMOS

## おいしい温度。サーモス

届けてきたのは、毎日のうれしい気持ち。

真夏の午後に飲むスポーツドリンク

しんと冷える朝に飲むコーヒー

仕事でひと息ついた時に食べる、温かいお弁当。

100年以上もの間、届けてきたのは「おいしいね」のすてきな笑顔。

これからも ずっと一緒に。

さらに詳しい情報は、こちらまでお問い合わせください。

---

**投資家・株主の皆さま**

財務・経理室 IR部

Tel : 03-5788-8512

E-mail : [Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp](mailto:Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp)

**今後の投資家向け開催予定イベント**

2022年3月期 第2四半期決算発表

2021年11月1日（月）

*[www.nipponsanso-hd.co.jp](http://www.nipponsanso-hd.co.jp)*

**日本酸素ホールディングス株式会社（証券コード：4091）**

本社所在地：〒142-0062 東京都品川区小山1-3-26



**NIPPON SANSO HOLDINGS**

**The Gas Professionals**

© 2021 NIPPON SANSO Holdings Corporation All rights reserved